

学習の土台を固め、楽しさを味わわせる指導法
～通級指導教室での実践から～

鹿児島県鹿児島市立中山小学校 教諭 清藤 大嗣

1 はじめに

私自身、昨年度までLD・ADHD等通級指導教室を担当していた。(今年度は、特別支援学級の担任をしている。)通級指導は、限られた指導の時間の中で成果を出さなければならないので、時にはプレッシャーに感じることもあるが、児童は毎回の指導を楽しみにしており、私としてもやりがいを感じている。

この発表の機会を頂いたのは、昨年度の12月。何の実践をまとめてみようかと考えている最中、新型コロナウイルスによる臨時休業期間に入り、思うような実践ができなかったことをお詫し頂きたい。

本研究では、これまでの通級指導教室担当として実践したことをまとめてみることにした。

2 本校通級指導教室の概要

設置年	平成21年
在籍児童数	50人(令和2年度) 自校通級：33人 他校通級：17人(6校)
担当教諭数	2人

中山小学校は、全校児童1433人(令和2年度4月時点)が在籍し、鹿児島県内一の児童数である。(九州一でもある。)この数年、宅地が多く開発され、児童数は増加傾向である。

通級指導教室についても、平成21年度11人で開設されたが、通級へのニーズも高まってきており、今年度は50人と多くの児童が通ってきている。

本校通級指導教室は、LD・ADHD等通級指導教室であるが、自閉スペクトラム症、情緒障害、場面緘黙の傾向がある児童も在籍しており、様々な教育的ニーズに対応している。

指導回数は、基本的に週1～3時間の通級(週1～2回)である。児童の実態に応じて、個別での指導や2～3人での小グループ指導の指導形態をとっている。

<1単位時間の基本的な流れ>

①お話タイム	5分	1週間での出来事などを気持ちやその理由を含めて話をする。
②活動I	15分	それぞれの課題に合った活動(認知機能トレーニング、ソーシャルスキルトレーニングなど)
③活動II	15分	
④いきいきタイム	10分	児童が選択した活動(自由遊び)(ドッジボール、カードゲーム、ジェンガ、タブレットなど)

3 研究テーマについて

(1) テーマ設定の理由

私自身、これまで「学習の土台は、基礎学力を身につける。」と考えていた。例えば、漢字の書き取りや計算ドリルを繰り返し行い、数をこなすことでいずれ身につくと考えていた。

もちろん、そのような学習を否定するつもりはないが、児童が意欲をもてなかったり、すぐ

に飽きてしまったりすることも多かった。また、週に1回の通級指導で行ってもなかなか学習が定着せずに、指導法を工夫することが必要であった。

また近年、特別支援教育では、「認知特性に応じた指導・支援」の必要性が注目されており、感覚統合の視点に立った遊び、コグトレ (Cognitive Training)、ビジョントレーニング、ソーシャルスキルトレーニング (SST) の書籍も多く出回っている。そこで、児童の認知特性を生かすことで学習の土台が作れるのではないかという仮説の下、本研究を進めることにする。

(2) 学習の土台とは

コグトレを提唱している宮口幸治氏によると、勉強の挫折が非行化につながるケースもあり、学習でつまづかないためにも、「学習の土台となる見る力、聞く力、想像する力をつける必要があり、さらに身体面の支援が欠かせない。」と言っている。したがって、「社会面、学習面、身体面の3つの方向からの子どもの理解と支援が必要」であり、児童の実態に応じて支援することで、認知機能を高めたり対人スキルを身につけたりできると考える。

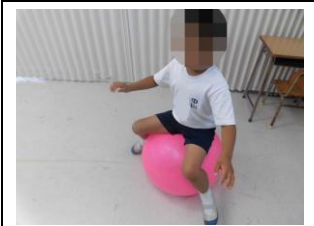



本研究では、それらの3つの面からアプローチをしながら、実践を積み重ねていった。

4 研究の実際 (通級指導に取り入れた活動について)

(1) 身体面

在籍している児童の中にも姿勢の保持が苦手な子がいる。そこで、体幹を鍛えるためにバランスボールやバランスボードなどの教具を活用した。また、身の回りにある道具 (新聞紙、紙皿、空き缶など) で教具を作成することもあった。


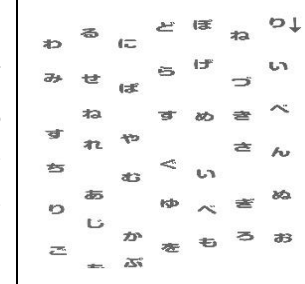
児童の情緒も落ち着き、注意・集中することにつながることができた。



			
<p>【バランスボールとバランスボード】 主に体幹を鍛える目的で行った。姿勢を何秒維持できるか、乗ったまま体が動かせるかなどに挑戦した。</p>	<p>【ジャンプタッチ】 高さが違う紙皿をつり下げ、30秒で何回タッチできるか挑戦した。</p>	<p>【空き缶積み上げ】 決められた時間内に何個の空き缶を積み上げることができたか挑戦した。</p>	

その他...縄跳び、お手玉投げ、ストラックアウト、ペダロ

(2) 学習面

通級指導教室では、主に注意力や集中力を高めるために、コグトレやビジョントレーニングの書籍を参考にしながら、「見る活動」、「聞く活動」を中心に行った。


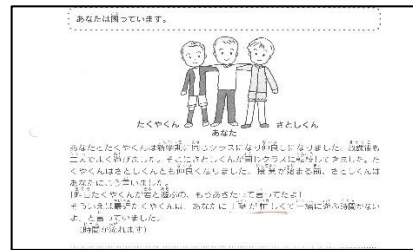
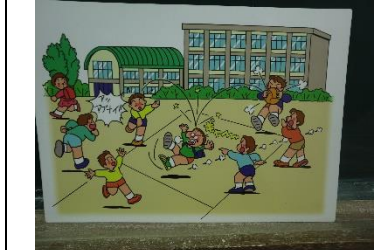
	<p>【コグトレ】 写真は、「同じ絵をさがそう」の例である。複数の絵の違いを探し、消去法で答えを導いていた。</p>		<p>【ビジョントレーニング】 声に出して、数字や文字を読んでいく。</p>
---	---	--	---

	<p>【きくきくドリル】 CDの指示をよく聞いて問題に答えていく。聞いた内容を覚える力も身につく。</p>		<p>【タングラム】 型紙の中にタングラムを敷き詰めていく。できたときの達成感も味わうことができた。</p>
---	--	--	---

その他...コグトレ（最初とポン、何が一番？）、ジオボード、ジグソーパズル、タブレットを使ったビジョントレーニング

(3) 社会面

通級に通ってくる児童は、コミュニケーション面で課題がある子も多い。授業の最初の「お話しタイム」の中で、適切な行動を振り返ったり、ソーシャルスキル絵カードを用いて考えさせたりすることもあった。また、ペア学習のときには、ロールプレイも取り入れ、対人スキルについて考える機会となった。

		
<p>ロールプレイの様子</p>	<p>プリント学習 「こんなとき、どうする」</p>	<p>ソーシャルスキル絵カード</p>

5 実践例（対象児：6年A児）

(1) 児童の実態（個別の指導計画より）

- 感情のコントロールが難しい。思い通りにならないと手を出すことがある。
- 思い込みが激しく、自己肯定感が低い。処理能力が低く、不器用である。
- 忘れ物が多い。
- 体を動かすことを好んでする。
- 単元テスト等の成績は中程度であるが、学習意欲は高い。
- 通級は、4年生時から利用。週2時間（週2回）の指導。

(2) 指導の方針と流れ

週2回の指導のうち、1回は個別での活動、もう1回はペア学習を行った。ペアは、同じ学校、同学年の児童と行った。主に、個別での活動で「学習面」、ペアでの活動で「社会面」を指導することとした。

(3) 具体的な指導の一部

ア 集中力を高めよう

A児は非常にゲームやパズルが好きであった。そこで、タングラムやDE-ON（くもん出版）の課題などA児が抵抗なく取り組める内容から始めた。「あきらめずに取り組めるかな。」○

